



2013~2014年度 国際ロータリーテーマ
ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES
「ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を」

HIRATSUKA R.C. WEEKLY

- 会長 牧野國雄 ●副会長 常盤卓嗣 ●幹事 清水 裕 ●会報委員長 青山紀美代 (2013~2014年度) E-mail:hiraturc@ma.scn-net.ne.jp
- 例会日 毎週木曜日 12:15~13:30 ●会場 グランドホテル神奈中 平塚2F ●事務局 平塚市松風町2-10 平塚商工会議所内
- 四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第2931回例会 2014年2月6日 グランドホテル神奈中 週報第2931号

本日の卓話者ご紹介

三井不動産株式会社商業施設本部
リージョナル事業部 事業企画グループ
肥田 雅和様



本日は、三井不動産の企業理念、商業施設開発の実績などお話いただきました。

<委員会報告>

桐本美智子ガバナー補佐

2/1 (土) I・Mが無事終了致しました。各クラブ紹介の映像を市民の方にも観ていただき、クラブの活動をご紹介できたことや、ロイヤルホームセンターや当クラブの会員から防災用品を集め、展示販売出来た事もよかったですと思います。新会員の方、皆様ご協力いただき有難うございます。

クラブ研修委員会 升水一義委員長

第2回新会員クラブ研修セミナー開催のご案内

日時: 2/27 (木) 18:30~20:30
場所: グランドホテル神奈中 平塚
本館2F「百合の間」例会場

*特に入会5年未満の方、また皆様にも是非ご参加いただきたくお待ちしております。

新世代委員会 江藤博一委員長

第44回平塚市少年少女マラソン大会開催のご案内です

会期: 3/1 (土) 小雨決行
会場: Shonan BMW スタジアム平塚および総合公園園路

集合: 8:30 までに会場にお越しください。

閉会式: 12:00

*お弁当をご用意します。歩きやすい靴でご参加ください。

<幹事報告>

◎2/1開催のI・Mには30名の会員にご参加いただきました。

◎第8回IA委員会・第6回IA合同会議開催のお知らせ

日時: 2/15 (土) 13:00~17:00

場所: かながわ女性センター

*木村義広委員長が出席します。

◎国際ソロプチミスト平塚より「第35回 チャリティーコンサートへのお誘い」

「麻倉未稀チャリティーコンサート」

日時: 4/13 (日) 受付 15:30~

開演 16:30~ / お食事 18:00~

会場: ホテルサンライフガーデン5F「江陽の間」

会費: 10,000円

締切: 3/15 (土)

◎薬物乱用防止推進地域連絡会の開催について

日時: 3/10 (月) 14:00~16:00

場所: 平塚保健福祉事務所 3F「大会議室」

◎2014-15年度版 ロータリー手帳のお申込承ります。

2/24 (月) まで。1部648円

*5月下旬のお渡しとなります。

<メイクアップ> 4名

柏手 茂・馬上 晋・鶴井雄仁・江藤博一 会員

<本日のスマイル> 17名

<ゲスト> 3名

肥田雅和様 (卓話者) / 山上慎吾様 / 小倉 将様

<卓話・行事予定>

2月20日 (木) 榎湘南ベルマーレ

代表取締役 眞壁 潔様

27日 (木) 神奈川大学名誉教授

経営学博士 海老澤 栄一様

3月 6日 (木) 職業奉仕委員会による会員健康診断

13日 (木) 日野自動車(株)車両企画部

参事 新倉孝昭様

20日 (木) 入会記念卓話 前田孝平会員

<市内例会変更>

現在ございません。

<出席報告>

本日 2月6日	会員数 62名	対象者 57名	出席者 47(44)名	出席率 78.33%			
前々回 1月23日	会員数 63名	対象者 58名	出席者 43(39)名	出席率 69.35%	MUP 4名	計 47名	修正率 75.81%

ポリオとの闘いの日々 世界中の子どもたちに幸せな明日を贈る

フィリピンで最初のポリオワクチン接種活動

国際ロータリー（R I）の1978年4～5月の理事会は、「保健、飢餓追放および人間尊重補助プログラム（Health, Hunger and Humanity Program）」、いわゆる3-Hプログラムを設立し、これは1979～80年度にロータリー財団に引き継がれました。このプログラムの目的は、国際間の理解、親善および平和を推進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展をはかることにあります。

1979年の初め、フィリピンのザビノ・サントスバストガバナー（1970～71年度）が、R Iにポリオ免疫接種事業を行ってくださるよう、という手紙を出したのです。ポリオ予防ワクチンの必要性、国内外の諸機関の協力、ロータリアンおよびロータリークラブの協力などが考慮された結果、フィリピンは、3-Hプログラムによる、最初の大規模免疫接種活動をするのに適切であると、認められました。

その結果、1979年9月、生後3か月から36か月の子ども約600万人に対して、5年計画のポリオ免疫接種活動が始まりました。そして、この活動が、R Iが取り組んだ最初のポリオ撲滅活動となったのです。

R Iの本格的取り組みに先駆けた日本の活動

1981年、第258地区（現、第2580地区）の東京麹町ロータリークラブ（R C）は、「3-Hプログラム」の「インドはしか免疫プロジェクト」に参加した経験がありました。同クラブでは、クラブ設立15周年事業として1982～83年度、南インドにポリオワクチンを送り、地元のロータリアンと協力して、子どもたちをポリオから救うことを計画したのです。

この計画は、第258地区と第275地区（現、第2750地区）の賛同を得て、2つの地区の世界社会奉仕（W C S）プロジェクトへと発展しました。ロータリー財団からは「すばらしい計画であり、感謝する」と評価されています。

「ポリオ2005」の誕生

1982年2月のR I理事会で、「ロータリークラブおよび地区が、保健、飢餓追放および人間尊重プログラム、世界社会奉仕計画、社会奉仕活動を通じて、世界中の子どもたちに伝染病に対する免疫接種を、適切な国際的、全国的、あるいは各地の保健機関と協力のものに継続させることを奨励し、西暦2005年に国際ロータリーの100年祭を迎えるまでに、全世界の児童をポリオから守る免疫接種を完了させることを目標とする」旨を決議しました。

これを受けて、1984～85年度、カルロス・カンセコR I会長（当時）は、この目標達成の方法をはかるポリオ2005委員会を任命、1984年11月の理事会で同委員会からのポリオに関する報告を受理、全世界規模でのR Iのポリオ撲滅活動が動き出しました。

1985年2月、ロータリー創始80周年に当たって、R Iは、ポリオ・プラス計画を発表しました。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の5つの病気を指します。ポリオだけではなく、これらの病気も含め予防接種も実施することとなり、ポリオ・プラス計画と改称されたのです。

目標を上回る募金を達成

日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、日本ポリオ・プラス委員会により、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。各クラブや地区での積極的な取り組みのおかげで、このキャンペーンが展開されていた1986年7月から1991年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える約49億円の寄付金を集めることができました。

R Iでは、1989年6月までの3年間をキャンペーン期間としていましたが、日本では5年計画を立てました。結果的には、5年間と見込んでしっかりとスケジュールを組んでいた日本のキャンペーン活動は成功で、非常に高い実績を上げています。R Iでは、1988～89年度までの3年間で米貨2億4,700万ドルを集めました。これは目標額の2倍に相当します。

多くの日本人がポリオワクチンを届ける

ロータリー財団では、WHOやUNICEFと綿密に連携し、集まった尊いお金をもとに、世界各地でポリオワクチンの投与を実施しています。しかしながら、ポリオワクチンの投与は、やさしいことではありません。宗教や紛争などの要因により、思うように事が運ばない場合も多々あります。ポリオワクチンを届けようとして、紛争に巻き込まれて亡くなった例もあります。

日本のロータリーとしては、1994年に非ロータリー国である中国で、ポリオワクチン一斉投与を実施しました。また、1995年、第2650地区（福井・滋賀・京都・奈良県）はW C S（世界社会奉仕）の活動の一環として、

カンボジアでワクチン一斉投与を行いました。この時はロータリー財団から30万米ドル、地区からは10万米ドルを拠出しています。

同地区では、この活動を皮切りに、幼児たちのためのワクチン一斉投与を、1996年・モンゴルで、1997年・ネパールで、1998年・ラオスで、1999年・ベトナムで、2000年・中国／ミャンマー国境で、2001年・バヌアツで、2002年・ミャンマーで、2003年・カンボジアで、2004年・ラオスで、今年2005年はパプアニューギニアでと、11年間にわたって活動を続けてきました。

その後、第2640地区、第2830地区など日本の多くの地区や、また、ロータリアンがポリオワクチン投与のために多くの国々へ出かけています。

これらの中には、ローターアクター（ローターアクトクラブ会員）が、参加した例もあります。

次々にポリオ撲滅宣言

最初にポリオの絶滅が宣言されたのは汎米（北・中・南米）地域。1994年のことでした。次いで、世界で2番目、2000年、WHOにより西太平洋地域での「ポリオ根絶宣言」が出されました。「西太平洋地域ポリオ根絶京都会議」——この輝かしい宣言は「京都宣言」として発表されています。

この「京都宣言」が大きく報じられたために、日本のロータリアンの中には、ポリオは終わったとの誤解が生まれるようです。京都宣言に続き、2002年、ヨーロッパ地域での撲滅宣言が出されていますが、これまで出された宣言は特定の地域での撲滅宣言であり、地球上すべての地域で、ポリオが撲滅されたわけではありません。

ポリオ撲滅活動の最終段階

100周年を記念して、2005年6月に開催されるシカゴ国際大会で、ポリオ撲滅宣言を出すために、国際ロータリーは、2002～03年度に「約束を守ろう、ポリオをなくそう」を合言葉に、「ポリオ撲滅募金キャンペーン」（P E F C）を実施しました。目標募金額は、8,000万米ドル。これには、現金、地区財団活動資金（D D F）、そして個人やクラブの3年間の誓約を含んでいます。

このR Iの挑戦に呼応して、世界中の各クラブ、各地区では、今年度、新たな活動を展開しています。日本では、2005年の6月までの3年間で目標を達成するよう活動を続けています。

ポリオの撲滅は99%達成しましたが、ロータリアンをはじめとする多くの人々の努力にもかかわらず、残念ながら、6月に開催されるシカゴ国際大会で、100%撲滅宣言を出すことはできない状況になりました。人口の多いインドでは、外部からのさらなる資金援助を必要としています。アフガニスタンにおける内戦の悪化も挙げられます。パキスタンでは政情不安を抱え、国境を接しているアフガニスタンからウイルスが流入する恐れもあります。ナイジェリアでは、北部の州でワクチン投与が妨害されたために予定が大幅に遅れ、一度ポリオの撲滅を宣言した近隣諸国にポリオウイルスが再び広がりを見せています。

R I国際ポリオ・プラス委員会委員長ウィリアム・サージェント氏は、「第2の恐ろしい病気が消滅すれば、発展途上国ではほかの公衆保健事業に何億ドルもの投資ができます。発祥場所を正確に把握し、さまざまな病気群の存在を特定するために利用される研究所間のネットワークは、世界中で受け継がれています。また、世界は、歴史上最大規模の公衆衛生運動から貴重な教訓を得ることでしょう」と、『THE ROTARIAN』の編集者の「長い目で見たとき、ポリオ撲滅がもつ意味はどのようなものでしょうか」という質問に答えて述べています。

『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』によれば、経口ポリオ・ワクチンの生みの親である故アルバート・セーピン博士はかつてロータリアンに、「1985年にポリオ・プラスを開始していなければ、ロータリー創立100周年の2005年にはポリオ患者が800万人に増加しており、おそらくその期間中に80万人がポリオで死亡していたことでしょう」と語っています。

ロータリアンが取り組んだポリオ撲滅活動によって、ポリオの発症例は大幅に減少しました。でも、ロータリーが掲げた目標が達成されたわけではありません。100%ポリオが撲滅したという宣言を出すその日まで、ロータリアンとポリオの闘いが終わることはありません。「約束を守ろう、ポリオをなくそう」

*本稿は、『ロータリーの友』2003年5月号横組みP 30～33「ロータリー ポリオとの闘いの日々」をもとにその後の状況を加筆したものです。

引用・参考文献

デビッド C . フォワード 菅野多利雄日本語訳監修『奉仕の一世紀 国際ロータリー物語』2004年『ロータリーの友』2004年8月、2005年4月の各号

『ロータリーの友』2005年5月号から